

石屋のイロハ(5)

鏡の様な光沢を放っている石を見たお客様から「この石、何か塗っているのですか?」と尋ねられる事があります。そこで今回は石の磨きについて、少しお話ししたいと思います。

「石を磨く」と言う仕上げは大きく別けて、一般に荒磨き・水磨き・本磨きに区別されます。

まだ機械の無い頃、今から60年以上前、先号の石屋のイロハで紹介致した様に、原石を8枚ビシャンまでの工程を行って、その後手加工の道具の跡が無くなるまで、目の荒い砥石でスリ下(おろ)します。この作業は多くの時間と体力が必要です。現在では、原石を切断・切削機で石をカットした状態がほぼ、それと同じ仕上げになります。

荒磨きは、切断・切削の跡を目の荒い荒番の砥石でスリ下した状態の事を言います。石の結晶(石目)が見えて来ます。(石材用の砥石には人造ダイヤの目の粗い順に、80番(100番)、200番、400番、500番、800番、1000番、2000番、3000番、バフの9種類があり、その内、荒番が80番、(100番)となります。)

水磨きは荒磨き80番で平になった面(つら)を200番、500番、時には800番まで砥石を使用した磨きを言います。この状態ではまだツヤは出ませんが、石の色・滑らかな肌ざわり、もちろん結晶も良くわかり、水磨きは本磨きと違った味わいが感じられます。石の特長の豪華さの中に落ち着きも感じる事が出来ます。朱鷺メッセの壁の一部に貼られている大理石が水磨き仕上げです。

本磨きは、水磨きの後1000番、2000番、3000番、最後にバフで、その石の最高の光沢を出します。石によっては鏡のごとく見える事でしょう。

どの工程も大事。前の工程の砥石で付いたスジを次の番数の砥石でスリ下す。そして次の工程に進みます。いろんな石がありますが、磨きはその石の最高の光を出すべく作業を行います。石を磨くという事は昔はもちろん現代でも、多くの時間と、根気と熟練した経験が必要なのです。

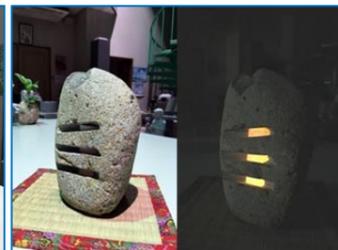
最後になりますが、鏡の様な光沢を放っている石には、何も塗っておりません。現代の人造ダイヤを用いた砥石で磨き出した物です。また次に紹介させていただきます。 【齋藤 繁樹】

暮らしに石を(5)



一輪挿し

下部を平らにした天然石の上部に穴を開ける加工をします。ガラスや陶器とは違う、天然石と活けたお花との調和が楽しめます。花瓶とは違って水が無くなりやすいので、1日1回程度に水を入れてください。



ミニ天然石燈籠

下部を平らにした天然石の下部から穴を開け、窓部分の切り込みを入れる加工をします。穴の中には和紙を貼って小さな電球を入れているので、ぼんやりと灯る独特の燈籠が出来上がります。ぜひ間接照明などにどうぞ。

小さな天然石の玉石を使って作る「一輪挿し」と「ミニ天然石燈籠」をご紹介します。この2つは2ページで告知しております夏休みイベント「石屋で遊ぼう! 石屋で学ぼう!」にて工作体験をしてお持ち帰りいただけます。自分で石を選び、どこを上にするのかを考えるとところから楽しめます。完成した物は世界に一つだけの作品となります。どちらも玄関やテーブルの上に飾るなどしていただくと、天然石が持つ独特の存在感が皆様のいつもの暮らしに新しい風を呼び込んでくれると思います。

編集後記

今号もお読みいただきありがとうございました。先日妻と二人の子供たちと花火をしました。花火で大はしゃぎする子供たちを見て、はしゃいで花火でやけどしたりした小さな子供だった頃の自分を思い出して懐かしくなりました。年齢だけは立派なオジサンになったんだなあ…。しみじみ感じました。ではまた。 【齋藤 勇介】

このニュースレターに関するお問い合わせ・ご意見・ご要望はこちらまでお願いします。お届け先の変更や、ニュースレター送付不要の際もお知らせいただければ幸いです。(担当: 齋藤 勇介)

(有) 齋藤石材店 〒950-3321 新潟市北区葛塚4804 Tel:025-386-3491 Fax:025-386-3493 E-mail:saitougs@beach.ocn.ne.jp ホームページ:http://www.saitougs.com/

齋石季報

平成30年 夏号
(第6号)

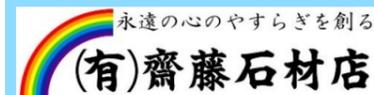
(有)齋藤石材店
新潟市北区葛塚

皆様なじにお過ごしでしょうか。6月末からすでに気温がいきなり30度を超え、早々に梅雨明けとなつての猛暑が続き、そして西日本の水害。昨今の異常気象には悩まされます。この先、帰省予定などお考えの方もありますでしょうが、体調管理に留意され、元気に過ごされますようお願いしております。

最近のおしごと報告



慶恩寺(北区笹山)の合葬墓の建立工事をさせていただきました。この宝塔は齋石季報第4号で作成報告をさせていただいた作品です。すべて茨城県産稲田石を使用し、当社職人100%手加工による丁寧な小叩き仕上げを施しています。この合葬墓は北区笹山の慶恩寺の本堂前にあります。檀家の皆さまをはじめ、近所の皆さまにもご覧いただき、お参りしていただければ幸いです。



(有)齋藤石材店

ホームページ: <http://www.saitougs.com/>
E-mail: saitougs@beach.ocn.ne.jp

齋藤石材店 新潟 で検索

本社・工場

新潟市北区葛塚(正尺)4804
日本海沿岸東北自動車道
豊栄新潟東港I.C.すぐ近く
Tel: 025-386-3491
Fax: 025-386-3493



太平店

新潟市東区太平2丁目1-31
国道113号沿い
新潟空港の目の前です
Tel/Fax:
025-275-9638



誰も教えてくれないお墓の力(ちから) 今野栄一郎 著

第4号で紹介させていただきましたこの小冊子について、1章ずつ内容を抜粋して連載しております。

第2章 お墓は見える所より、見えないところが大切

皆さんがお墓を建てようと考えた時、「どんなお墓にしようか？お寺さんはどうしようか？」と、あれこれ考えられると思います。お墓には形や儀式など目に見える所と、目には見えないけれど、あなたや家族にとって重要なポイントが隠されているのです。

パソコンで言うと、ハードウェアとソフトウェアのようなものだと思っただけならば、わかりやすいと思います。

私たち石材業者は、そのハードウェアを作る専門家なので、お墓のことを聞かれると、つい自分たちの専門分野の話ばかりを多くしてしまいます。

宗教の専門家のお坊さんたちも、その宗教団体の供養の方法や儀式的な話が多いように思います。

また、お墓の本があったとしても、内容が哲学的で理解するのがとても難しい書物だったり、墓石の作り方で家運が上がるとか下がるとか、少々オカルト的なものだったりするものも、多く見かけます。

残念ながら、これからお墓を使用される方の立場になって「お墓とは何か」と、真の目的をわかりやすく語られる方や書物がとても少ないのが、今の現状なのです。

いくら立派な石碑を建て、立派な儀式を行ったとしても、お墓を使用していく人たちが、お墓の使用目的や自分たちの考え方、心の持ち方を理解していなかったとしたら、先でも述べましたが、お墓に対して価値を感じることはありませんし、逆に墓が面倒な代物になってしまいます。

今からお墓を使用される方にとっては、お墓のハード部分より、見えないソフト部分がとても重要になってきます。せつかくお墓を作るのであれば、ご自分のお墓の意味を少し深く考え、あなたたち家族で、お墓の力をうまく引き出すことができれば、同じ墓石でも家族にとってはとても価値のある、宝物に変わっていくと思います。

そして、あなたや家族が幸せな人生を送る、大きなきっかけにもなると思います。お墓はいくら素材や形が良くても、中身がないと単なる高価な石の固まりにすぎないのです。

この冊子の紹介はこの先も続きます。お読みいただくと新たな気づきが得られ、とても腑におちる話と思います。ご期待下さい。

※冊子をご希望の方はお気軽にご連絡ください。

石屋で遊ぼう！石屋で学ぼう！

昨年初開催し、好評だった夏休みイベントを今年も『第二回 石屋で遊ぼう！石屋で学ぼう！』として開催します♪

石屋で遊ぼう！石屋で学ぼう！ 開催内容(予定) ※一部参加費がかかります。

- ・積石遊び(ロックバランス)
- ・石割り見学(体験)
- ・工作「ミニ天然石燈籠」
- ・手仕上げ工程見本展示
- ・工作「天然石一輪挿し」
- ・石材端材青空マーケット
- ・工作「本立て」(仮)
- ・工場見学
- ・工作「文字彫刻・イラスト彫刻体験」
- ・お墓・仏事よろず相談所 など

昨年は小学生、中学生と保護者のみなさんにご参加いただいて、暑い中楽しんでくれた姿が印象的でした。

その時に好評だった上記の企画と新企画も少し追加して今年もまた開催します！

保護者の方同伴となりますが、お気軽にご参加いただくと嬉しいです。自由研究の題材としても、ご利用下さい。

開催予定日 2018年8月11日(土・祝)

※申し込み連絡やお問い合わせは当社まで TEL 025-386-3491



豊栄市・閉市記念碑のはなし

「豊栄市・閉市記念碑」とは嘉山にある新潟市北区文化会館の前に建っている大きな2つの碑の事です。

平成17年3月21日の平成の大合併により、現在の新潟市が誕生し、豊栄市は新潟市北区となりました。それに伴い豊栄市の名称は無くなってしまったのですが、その歴史を石に刻み、残すべく記念碑が建てられる事となりました。

この記念碑には豊栄市民にとって最も馴染み深い銘石である草水石(旧安田町産:現阿賀野市保田地区)の原石を使用しました。重さ16tもある大きい方の碑には表に、故・弦巻松陰先生の豪快な「榮豊」、裏には最後の豊栄市長であった、故・小川竹二氏の撰文による「誇るべき豊栄市民の歴史」が彫られています。

当社社長も豊栄で生まれ育ちましたので、この「榮豊」を彫るにあたって、思い入れもあり、こだわってこの文字を手彫りで彫刻する仕事をさせて頂きました。

小さい方は(同じく草水石・原石2.0t)、これも小川竹二氏の撰文で、小黒五稜先生の揮毫による文を浮き彫りしています。

除幕式は新潟市との合併に先だつての平成16年11月6日に関係各氏と記念植樹する市民の方々の出席のもと行われました。

このような歴史を残せる仕事に関わられた事を誇りに思いますし、感謝の念にたえません。大勢の皆様、本当にありがとうございます。

【齋藤 美代子】



平成16年11月6日の除幕式の様子
後ろに見えるのは葛塚中学校の旧校舎 この場所は一度公園となった後、新潟市北区文化会館が建設されました。



現在の記念碑(新潟市北区文化会館前)

文化会館建設時に一度取り外し移設した為、除幕式当時とは設置場所と向きが若干変わっています。



大きい方の記念碑

表面には「榮豊」、裏面の「誇るべき豊栄市民の歴史」にはこの地域の地形がどの様にして形成されたのかと言った地学的な説明や、福島潟の干拓から始まるこの地域のフロンティア精神と歴史が記されています。また、上部にあるのは豊栄市の市章。カタカナの「トヨ」の字を福島潟で取れる「菱の実」からとった菱型にデザインされています。



小さい方の記念碑
碑文として

『21世紀の初め、私たちは環日本海諸国の一員として、交流の海に向け、この地より船出をします。

私たちは「地域コミュニティ」という船に乗り、皆で力を合わせ、そして、自らも力を尽くし、こころ豊かに栄える島を目指して、漕ぎ出します。』と記されています。